

【九月の言葉（令和五年）】

救いとは、

進むべき道が 明らかになることです。

彼岸とは“彼の岸（仏さまの世界・お浄土）”を表しています。仏教は、迷いの世界である「此岸（此の岸）」から、悟りの世界である「彼岸」へ行くことを目的としています。

どのようにして此岸から彼岸へ行くのかが問題です。阿弥陀如来という仏さまは、煩惱をいっぱい抱えた私たちが、自力で“生死の苦海（苦しみに満ちた迷いの海）”を渡ることはできないということを見抜いて、私たちが安心して渡っていけるように『本願』という大きな船を用意して「我にまかせよ、必ず救う」と念仏となり呼び続けてくださっているのです。私たちが凡夫が救われるのは、この阿弥陀様の願船に乗っていくしかないのです。

救いとは、進むべき道が明らかになることです。

どんな嵐や大波が来てもしつかりと支え、彼岸まで渡らせてくださる弥陀の願船。ぜひ早く弥陀の願船に乗ってください。

念仏とともに、彼岸へと渡らせていただきますしよう。